

2017 年 3 月 6 日

米 Amazon 社の音声認識・入力技術である Alexa に接続するアプリ／プラットフォームの提供 および開発サービスを開始

株式会社チェンジ

株式会社チェンジは、IoT 時代の音声インターフェースの事実上の標準になると予測されている、米国アマゾン・ドット・コム社の Alexa に対応したアプリ／プラットフォーム（Skill）の提供および開発サービスを開始します。まず、グローバルに展開している日本企業向けに、英語版での開発ノウハウを蓄積しつつ、将来の日本語版のリリースに備えることを目的としたサービスを提供できる体制が整いましたので、日本市場での展開を開始いたします。以下、当サービス開始にあたっての背景・市場環境に関する情報の補足です。

「Amazon Echo」（音声認識によるアシスタントデバイス）の出荷台数は 2019 年までに 1 億 1300 万台と予測（注 1）されています。デバイス入力方法は、2010 年前後から PC（キーボード）からタッチ（スマートフォン・タブレット）に移り、次の段階では音声入力になるという見方が大勢を占めています。Amazon Echo に搭載されている音声認識・入力技術が「Alexa」です。Alexa は他社が提供する音声認識技術と比較して、スマートフォンではなく、家庭内などの空間に固定的に設置されて、様々なアシスタント機能を提供する点が特徴です。つまり、家庭内の IoT 機器すべてを音声でコントロールしたり、搭載した車をコントロールすることを可能にする技術と位置付けられます。

注 1）米国みずほ証券のアナリスト Neil Doshi 氏による予測

Alexa に接続するアプリやプラットフォームは、Skill（スキル）と呼ばれ、開発者が自由に開発し、公開することができます。例えば、上述の Amazon Echo では、音声による Amazon への注文が出来ますが、この文脈を解析するプログラムが Skill といえます。2017 年 2 月には公開されている Skill の数は 1 万を超え、急速に拡大を遂げています。

チェンジ社長の福留大士は、「2017 年の米国 CES（注 2）で最も注目を集めた Alexa は、スマートフォン時代のタッチインターフェースの次に到来する IoT 時代の音声インターフェースの大本命です。我々はビッグデータ解析のサービスラインを中心に、関連する知的財産権の取得も含め、音声データの解析技術を磨いておりますが、今回、スマートフォン向けアプリケーション開発のノウハウとそれらの技術を融合したうえで、日本市場における Alexa の活用をリードして参ります。」と述べております。

注 2）米国ネバダ州で実施される見本市（Consumer Electronics Show の略）

※本リリースで使用している Alexa、Amazon Echo などの名称は米国 Amazon.com Inc.の登録商標です。

■株式会社チェンジ：

<http://www.change-jp.com/>

本社：東京都港区 代表取締役：福留大士

本件の問い合わせ先：

株式会社チェンジ

東京都港区虎ノ門 3-17-1

Control & Management 担当

メール：ir_info@change-jp.com